震える、二つの肩

江角 稚

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
震える、二つの肩

【Ｎコード】
Ｎ３１８６Ｚ

【作者名】
江角　稚

【あらすじ】
とある女の子と、
とある青年のお話。

・・・あながち、間違いではないと思います。

プロローグ

恐怖。

目の前に広がる光景は、
多分、一言で表すのならそんな感じ。

私は彼の肩越しに、
”恐怖”を見ていた。

その肩は、
私を守ろうと必死だった。

私はただ、
怯え、震えていた。

いつも通りの帰り道。
いつも通りの公園で、
いつも通りに友達と過ごし、
いつも通りにバイバイして。

そして、
いつもと違う出来事に

遭遇した。

四人。

急に、

腕を

掴　ま　れ　て

…連れていかれそうになった。

そこに通り掛かったのは、
二十歳前後の
青年だった。

そして、今に到る。

私を助けようとした彼は、
今、私を庇うようにして

私の前に立ちはだかっている。

ただ、
彼は突き飛ばされて
私達は一緒に尻餅をついた。

…私に至っては、
壁に頭を強(したた)かに打った。

そして、
私が彼の肩越しに
見ていたものは。

四人の男と、

四つの刃物。

銀色に、怪しく光るそれは、
私を怯えさせるには
十分過ぎる代物だった。

女の子の視点

私達の方に、
男達が寄って来る。

その一人が、
走り出した。

そして、
ナイフを
振り

上げて

そのまま

下ろされ

た。

…けど、
誰も怪我をしなかった。

男は足元不注意で、
手前の石に躓いて転んでいた。

それは見事に
美しいコケ方で、
芸人さんがやったら
大ウケする程。

しかし、
笑える状態にある程
コメディーちっくな雰囲気ではない。

青年は、
顔面からアスファルトに落ちて
気絶している男から
ナイフを奪った。

そして、
男に刃先を突き付けて
こう言った。

”彼女から離れろ”と。

青年は男を盾に、
私を助けようとしていた。

男達は動かなかった。
いや、動けなかった。

睨み合う、緊迫の時間。

しばらく経った頃、
青年が盾にしていた男は目を覚まし、
彼の腕を振り払おうと
暴れ出した。

いきなり、
大量の鮮血が
噴き出した。

よく分からないが、
どうやら男は
自分の首元のナイフに気付かないまま
もがいたらしい。

スパッ、と
嫌な音が響き渡った。

男達は逃げ出した。

私は、その
一連の出来事を
震える彼の肩越しに見ていた。

彼よりもずっと、
震えながら。

青年は両手を血に染めたまま、
私の方を振り返る。

そして。

青年は優しく、
そして哀しく、
微笑んだ。

”怖いものを見せてしまったね。すまない”

彼は、その一言だけを
私に残して

この場を去りました。

首切られ男の視点

「あ〜」
今日も暇だなぁ…

俺は手下三人を従えて、
街中をブラブラしていた。

今日もパチンコは大負け。
チッ、ついてねぇ。

その時。
「ん？」

目の端に入ったのは、
帰宅途中の女子高生。
しかも、かなりの上玉だ。
制服から察するに…この近所では有名な、
私立のお嬢様学校。

女子校には世間知らずが集まる。

襲うのにはもってこいだ。
相手は一人。
こちらは四人。
ちょっと悪いが、
ウサを晴らさせて貰おう。

そう思っていた。
だが、通りすがりの変な男に止められた。
「うるせぇ！俺達に、指図するな！！」俺は男を突き飛ばすと、
後ろの女も一緒に飛んだ。

仕方がない。
この男は殺して、
女だけ連れて行こう。
後は、人気のない廃ビルにでも連れ込んで…。
そんなプランを立てながら、
俺は、走り出した。

そして、

ナイフを振り上げて

何かに躓いた。

…転んだせいで、
刃先は男の顔をスレスレに走った。

俺は見事に顔面を打ち、
そのまま意識を失った。

…気がついたら、
俺は男から
羽交い締め?にされていた。

男は俺を盾に、
女を助けようとしていた。

そして、言うのだ。
”彼女から離れろ”と。
何故か、手下達は動かない。動けない、と言う事実に気付かないまま。

俺は、
それなら自力で脱出しようと試みた。

その瞬間、
大量の鮮血が
噴き出した。

スパッ、と
首が切れた音がする。
いや…首が切れたのだと自覚する頃には、
もうすでに俺の意識は混濁していた。

手下達は逃げて行く。

待ってくれ…
何で…
何で、俺を置いて…
行くんだ…

俺は意識を失い、
そして、二度と

目を開くことはなかった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3186z/

震える、二つの肩

2011年12月13日02時02分発行